



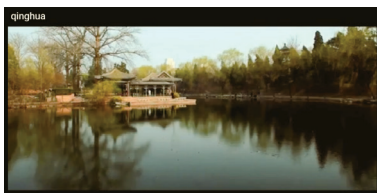
この新聞はHP (<http://www.npo-asia.org>) でも読めます。上のQRコードを読み取ってください
〒154-0016 東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414 E-mail: new-wind2006@npo-asia.org

オンラインにより清華大学を訪問、交流会を行いました。

5月9日(月)、午後3時より、清華大学Iメイト20名、会員26名が参加し、交流会が行われました。陳朝輝先生のご指導のもと、学生が制作した大学の紹介ビデオ、また小グループでの討論会が行われ、盛り上がりしました。

ご挨拶

「異文化交流」という五文字が頭に浮かんできた。とくに「異」という漢字の意味に引っかかった。元々「怪しい」「可笑しい」という意味で、さてなぜ「怪しい」「可笑しい」かというと、自分が「正統」であるから。今の私たちは決してその意味で使っているわけではないのだが、しかし言葉ほど危ないツールはない。とくに「異文化交流」となると、注意が必要だ。しかし余りに注意し過ぎると、また「用心深く」なってしまって、異国人同士の友好が望めなくなる。それは本末転倒だ。



<優雅な佇まいの清華大>



<紳士達のコンサート>

ちなみに「交流」とは「交わり」ながら「流れていく」という意味。さてどこへ流れていけばいいのでしょうか。外国語を専門とする皆さんには是非考えてほしい。もっとも「異文化交流」があつての私たちの学科だから。(清華大学文学部准教授 陳朝輝)

学生たちの感想

私たちは清華大学の学生の日常生活の動画にしてみた。その動画で清華大学に興味を持ってくれたら嬉しい。グループ交流では新型コロナウイルスの影響やそれに対する政策について、色々と

意見を交換、いい勉強になった。

(陳雨昂)

『サザエさん』を中心に、グループの皆さんと中日両国の家庭生活について検討し、日本社会をより一層深く理解できた。コロナ感染拡大のもとで、その影響を乗り越え、素晴らしい交流会に参加させていただけたのは、事前に準備して頂けたからと心から感謝している。

(杜哈熠)

主に中日教育に関する問題について討論した。例えば中国の大学入試制度とか推薦入学制度とか、話題に上がった。Iメイトたちも日本の大学を紹介してくださった。私たちは中日教育の違いだけでなく、中日生活の違いについても討論した。これからも機会があれば、このような活動に参加し続けたい。(劉明洋)

Zoomを通じIメイトの皆さんの元気な姿を見られて、たいへん嬉しいです。私たちのグループは清華大学の飲食事情についてレポートしました。その後の討論会では、中日両国の大学生活の違いについて色々話し、本当に勉強になりました！(夏祥威)

私たちは清華大学の建物を紹介した。この構想を提出したのは、清華大学についてもっと知りたい会員がいると聞いたからだ。清華大学の建築物の多くは、古典と現代、東洋と西洋の異なる特色を持ち合わせている。資料や動画を探しているうちに、2年間過ごしたキャンパスを再認識した。清華大学の歴史と建築物の起源などを再認識できたのは、私たちの思わぬ収穫だった。

(陳泓昕)

ハノイ貿易大学との交流会

2022年4月23日(土) 日本時間15時~16時半、貿易大学オンライン交流会(会員18名、学生12名、アン先生、合計31名参加)が行われた。今回の立案・準備は学生主体で実施され内容も一新された。テーマの「旅行」に沿って、前半は学生から『Iメイトへのメッセージ』や『ベトナム観光地紹介』のビデオが、日本人会員からは日本人でも学び直しになる『京都案内』があり大変好評だった。後半の交流会も和やかな雰囲気の中コロナ後の旅行に思いを馳せ、盛会に終わった。(コーディネーター 小林玲子)

学生からの声

4月の交流会はIメイトと会話したことがない学生にとって相手との関係を築く楽しいチャンスだと思いました。

会員紹介のビデオでは学生会員は相手に対する愛情を表しました。また、「コロナ後の旅行」をテーマにして、みんな気楽に話し合っ、ベトナムと日本の文化を交換することができました。



<トアンさんと今井さん(右欄筆者)>

私達Iメイト学生は、今のコロナ状況は落ち着いていくから、日本人会員にベトナムの色々観光地を勧めたいと思います。そして、交流会の準備を通じて、後輩たちのリーダーシップと特別な才能がわかってきました。これから、優秀な新コーディネーターがIメイトの活動をますます発展させることを期待しています。

(ド・ティ・トアン)

会員の声

アジ風に入会して10年。2013年の貿易大学での交流会に参加して以来、Iメイトは私にとってベトナムの最高の案内役。

今回は旅行という身近なテーマ。ベトナム各地の魅力を、貿易大学生の豊かな感性で紹介。

ベトナムの観光産業はGDPの1割に近づいていたが、パンデミックで急激に落ち込み、経済に大きな打撃を受けていた。

ベトナム人は家族が健康で、国が豊かで発展することを望む。ベトナムの精鋭を育てる貿易大学生の観光業への期待を実感する優れたプレゼンテーション。Iメイト紹介ビデオは、考え抜いた短文と写真で自分のIメイトを紹介。交流内容が活き活きと伝わり、楽しく、他のIメイトの参考にもなる優れたビデオ。

(正会員 今井進)



学生と会員の語らいの時間

3月21日の清華大学 I メイト交流会は、陳朝輝先生の授業の一環として行われ、学生は2年生全員と3年生の有志、会員、事務局を含め、合計47名が参加しました。

陳先生のご挨拶の後、第一部では「中国の年中行事」、「日本語学科の学生の一日」、「日本の映画」、「若者文化」の4テーマについて、2年生全員が発表しました。また、3、4年生からは I メイト交流の経験談が披露されました。第二部では6、7名のグループに分かれ、ファシリテーターのリードのもと、節句・七夕・お盆などの年中行事、古典文学、結婚観・家族観、花（桜・梅）の観賞、アニメを見るアプリについてなど、幅広い話題で会話を楽しみました。

参加した会員の皆様の声を紹介します。

- ◆ 清華大学の皆さんが、しっかり準備された様子が感じられました。こうしたお互いを理解しようとする意識や行動が、とても重要であると思いました。
- ◆ 年中行事は、当時からの伝来で日本とほぼ同じと改めて認識し、若者文化は知らない世界だったので、興味深く拝見しました。
- ◆ 「大学の一日」は、以前、清華大学に行ったことを思い出しながら、見ておりました。学生が一生懸命作成したことが、よくわかります。
- ◆ 大学生活も垣間見られ、メール交換では見られない素顔が見えて、とても面白かったです。
- ◆ 一対一とは、また違った楽しさを感じました。I メイト以外の

学生ともお話しでき、彼らを理解するのにとても参考になりました。

- ◆ Zoom で、こんなに簡単に大勢と手軽に交流でき、つい数年前には考えられなかったことです。直接 I メイトの方とお会いしたことがないので比べられませんが、この方式もさらに有効に利用していきたいものです。

- ◆ 短期留学でも、来日の機会があれば、連絡を取り合い、リアルな交流も行いたいと話しました。

交流会後に会員が I メイトから受け取った感想を紹介します。

- ◆ とても楽しかったです。次回、また、会えるのが楽しみです。
- ◆ 生の会話が出来たのはとても嬉しく、日本の人はとても親切です。
- ◆ 勉強になりました。スタンプについての資料をたくさん調べたし、日本の若者文化についても理解しました。

会員、学生から、「第二部のグループコミュニケーションでは、時間の都合で十分な話ができず残念」との声が多く寄せられました。是非、今後の I メイト交流会の企画に生かしていきたいと思っています。

(コーディネーター 三木京子)

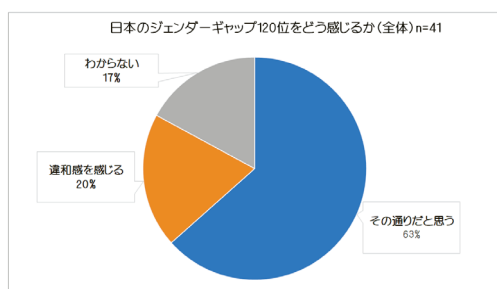


元 I メイト学生から見た「日本のジェンダーギャップ」

世界経済フォーラムが毎年実施している「ジェンダーギャップ（性差）2021」によると、調査対象の156か国の中で、日本は120位という不名誉な結果（政治、経済、教育、健康の四項目）が出た。そこで元 I メイト学生に、それがどのように受け取られているか、アンケートを実施した。

なお、交流校が属する諸国の調査結果は、タイ79位、ベトナム88位、インドネシア101位、中国107位。アンケート時期2022年1月、対象総人数は121人、回答41人（回答率34%）。

日本のジェンダーギャップ120位をどう感じるか（全体の円グラフ）



コメント欄に書かれた意見から「その通りと思う理由」●と、「違和感を感じる理由」●を国別に抽出した。

- 中国 その通り 69%、違和感がある 16%、わからない 15%
- 外国人の私が知っている日本女性の政治家は「小池百合子」のみ。企業家はだれも知らない。大学教授、大手企業のリーダー、やはり男性がずっと多い。つまり、日本人の見方では、法律、制度、ルールより男性は女性よりも信頼できるわけで、この深い理由は、男性が出産と家族に責任を負う必要がそんなにないということ。
- 女は男の視点から自らを見て、男が好む女になりたい、というのは中国も実は同じ。ただ、いい男は女房に優しい男だという理念も浸透しつつある。
- 日本のほうが中国よりジェンダーギャップが少ないと思う。
- タイ その通り 71%、違和感がある 0%、わからない 29%

- タイでは共働き社会もあって、会社には役員の女性が普通にいるものの、日本の会社にはなかなか見かけない。

ベトナム その通り 62%、違和感がある 19%、わからない 19%

- 日本では、男性は働いて稼ぐ役、女性は家庭内で家事や子育てと分業の傾向がある。実際、私が妊娠を上司に報告した時に最初に聞かれたのは仕事を続けるか、専業主婦になるかということだった。自分は仕事を続けるのは当たり前だと思い込んでいたが。
- 昔の家父長制の影響が残り、ジェンダー平等の実現が（特に政府や職場では）難しい。なかでも日本は伝統を非常に尊重している国であり、昔からのやり方にこだわっている感じがする。

インドネシア その通り 40%、違和感 60%、わからない 0%。

- 日本では男女差別が減少していると聞くが、精神的な問題が残っていると思う。「女らしいこと」や「男らしいこと」の評価で傷つく人間がまだたくさんいるので自分らしく生きられない。
- インドネシアでジェンダーギャップがあるのは宗教に関連していること。リーダーにすべきなのは男だとコーランにも書いてあるので、政治家のほとんどは男性。日本は宗教的な国ではないのでインドネシアよりずっとマシだと思う。

多文化共生という理念を掲げるアジ風だから、「それぞれの国に歴史・社会、文化的背景があり、一律のグローバルスタンダードで判じるのはどうか」という意見もある。ただ、政治・経済の領域では、データが明らかに男性優位であることを示しており、教育レベルが高く、健康で幸福な日本女性が社会で生かされていないというのは国として損失であろう。近年政治がその見直しやギャップの是正に動き出したことは間違いない。本来、どのような生き方を選ぶかは本人が決定できる多様性ある社会が望ましい。

ジェンダーの問題は、今後大事な争点や課題になっていくと思われるので、アジ風は会員みんなですっかり取り組んでいきたい。

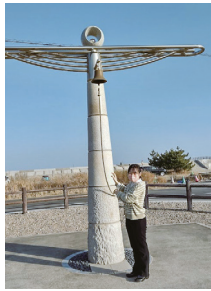
(OBOG 会事務局 担当理事 上 高子)



宮城県での気付き

今年の3月にアジア風会員の安川一さんに案内してもらい、宮城県塩竈市へ足を運んだ。ベトナム人技能実習生を巡る問題を研究しており、実習生の面接を実施した。これをきっかけに、宮城県のことが深く理解できた。一番印象に残ったのは東日本大震災から10年を経て、地震で倒壊した街が再生し、繁栄していることである。

宮城県人は常に楽観的で強い性格と感じた。彼らが過去の喪失を未来の教訓として受け止めているからである。しかも、災害が多い所に生まれたことで、自分の持つ全てを大切にしている。働きに来ている実習生にも感謝の気持ちを伝えてくれた。宗教、文化、国籍を問わず、交流活動を通じて、外国人と日本人共存のコミュニティを構築するよう努めていることを実感した。ベトナム人だけでなく、全ての外国人に、地震被害の場としてだけでなく、人々が団結して困難を乗り越える宮城についてもっと知ってもらいたいと思う。(学生会員 レ・ティ・ミ・チー)



＜聞き取りをする筆者
(左端)＞

帰国記念の楽しい山行

5月11日の山歩きは帰国する私の送別会のBBQ付き山歩きだった。行き先は東京都檜原村と神奈川県相模原市の間にある標高990mの生藤山。都心からたった2時間で自然が満喫でき、この時季、たっぷり新緑も楽しんだ。

行く前に不安な天気予報があったけど、当日は好天に恵まれた。上野原駅から井戸バス停へ。バスを降りたところで、富士山がはっきりと見えた。参加者は7人で、Lucky Seven、みなさんの日頃の精進のお陰だろう。軍刀利神社に参拝し、神社の古い巨木の下で古海さんからの初物のサクランボを食べた。つづら折りの上り下りで苦闘して生藤山の山頂に着き、お昼。登頂して食べたお昼はいつもより一層美味しかった。昼食後、途中で1019m標高の茅丸山の標識を見た。疲れてはいたが、皆、登る。茅丸山の山頂から富士山を眺めて、他のハイカーと話して、楽しかった。下りは、土と岩がミックスした山肌。下山して、村落的



見事に手入れされた茶畑を見て、桐花園の野趣豊かな溪谷沿いでBBQした。冷えたビール、島村さんと古海さんから差し入れのワインと新潟の地酒を飲んで、美味しいお肉、野菜、焼きそばを楽しみ、色々喋って、疲れた体に心地よい時間となった。今までアジ風の山歩きは7回、いずれもすごく有意義な活動で、自然を楽しみながら会員たちと交流を深めることができた。(正会員 ジャン・ミャオ)



＜Iメイトの富平茂さんと＞

平和への思い

52年前に観た「ひまわり」が再上映されていると言う事で観に行きました。

物語の舞台はロシアですが画面に流れる雄大なひまわり畑の映像はウクライナの首都キエフから南に530Km離れたヘルソン州で撮影されたそうです。今ロシアによるウクライナ侵攻で国境を越える難民を受け入れる国々……。国境を越えて一人で何十キロも歩いて来たと言う小さな子供を温かく迎え食べ物を与えているボランティアの人々の姿に胸が熱くなりました。

「自己責任で気を付けながら・・・」なんて言い訳をしながら温泉旅行をしたり好きなものを食べに出掛けたり・・・そんな事をしていた、爆撃で建物は破壊され血まみれで病院に運ばれて行く人々等をニュースで見て心が痛む等と言うのは偽善者なのかなと思う事があります。せめてなにか私が出来る事はないかと思い、先日アジ風から送られて来た「ウクライナ難民支援の呼びかけ」の中から国連WFPとユニセフに支援金を送りました。

一日でも早くロシアによるウクライナ侵攻が終わり、50余年前のひまわり畑が又見られる様になる日を待ち望みます。

(正会員 古澤サヨ子)

戦争のない世界を

「つえ片手 闇夜の森抜けた 激戦地から国外避難」。毎日報道される都市破壊の惨状、故国を逃れてきた人々の悲しみと困窮を見るたびに胸が塞がります。もう終わったと思っていた国同士の戦争が突然始まったことに衝撃を受けています。アジ風の設立理念である「世界の平和を目指す」ことにあらためて思いを致し、Iメイトとも話し合いたいと思います。往年の名画「ひまわり」のロケ地がウクライナだったことを知りました。一日も早い戦争の終結を願っています。(正会員 荒木春洋)

会員紹介

中本 寧さん

中本さんは富山県富山市生まれの59歳、大学卒業以来37年間金融サービス関連の会社に勤務され、今年4月に退職してキャリアコンサルタントの仕事を始めておられます。

大学時代に中国語を第2外国語として履修中に、指導教師から中国語短期留学を薦められ、お酒の勢いで「ハイ、行きます!」と答えた数日後、本当に留学申込書を手渡され、引っ込みがつかなくなり、お父様から留学費用50万円を借りて上海に渡ったのが人生の転機だったとか。

入社5年後の90年から91年まで企業派遣により台湾師範大学に留学し、本格的に中国語をビジネスのベースとされました。93年から97年まで北京、97年から99年まで上海、01年から07年は台湾と勤務場所は変わりながらもますます中国と台湾文化の中に人生の骨組みを築き上げられました。

中国と台湾、それぞれの国柄に親しく接し、今も四季折々にそれぞれ数十人の友人とSNSなどを通じて交流を続けておられます

が、中国人の気風はよりアメリカ人に近く、台湾人の気風はより日本人に近く、その違いを知ることも面白いのだそうです。

アジ風に参加してまだ1年ですが、架け橋グループの清華大学大学院生李閻涛さんとIメイト交流を楽しんでおられます。中本さんが日本にいる留学生向けのセミナーで異文化交流の話をする準備のために、李閻涛さんの意見を聞いたところ、オランダ留学時代に経験した他のヨーロッパ各国との異文化交流の様々な出来事を完璧な日本語で大変誠実に答えてくれたことに感銘を受けたそうです。

「今後、台湾がアジ風の活動対象国になった際にはアジ風を舞台に、中国と台湾の学生が草の根で交流することが出来れば素晴らしいですね。その際、僕の出来ることがあれば協力を惜しまない積りです。」とイチロー選手似の精悍な笑顔を見せて下さいました。

インタビュアー：園田成和





架け橋グループは清華大学大学院生(東京工業大学との大学院交換留学生)との交流を進めています。今まで学生は中国にいてリモートで研究を進めていましたが、ようやく来日しての留学が実現することになりました。7月から順次来日が予定されています。今回は、昨年からスタートした、奥山正昭さんと蔵龍凱君、浅山久美子さんと馬思宇君との交流を紹介します。(コーディネーター 浮田 輝彦)

奥山正昭さんと蔵龍凱 (ツアン・ロンカイ) さんの交流 蔵さん→奥山さん 2021年 11月 6日

先週、鲁迅博物館に行きました。魯さんは中国の歴史有名です。私は魯さんの作品が好きです。博物館に葉書を買いました。来週、奥山さんまで葉書を出す。

奥山さん→蔵さん

11月 20日



蔵龍凱さんは鲁迅を尊敬し、鲁迅の生き方から多くを学んでいる理由を十分に理解できました。

日本でも鲁迅は有名で、中学校の教科書で著書『故郷』、『阿Q正伝』などを学びました。

歴史的には、中国から多くの文化が日本に紹介され、また学問でも日中間での交流の深さを改めて感じています。

私が蔵龍凱さんにメールを書くとき、日本語、それとも英語のどちらが良いのか迷っています。

返事は急がなくてもいいです。時間がある時にメールをください。

蔵さん→奥山さん

12月 11日

奥山さんからは日本語のメールがいいです。



日本の興味はドラマ、アニメ、音楽、木版画などなど。ストレス時、ドクターXを見ました。大門未知子の「私、失敗しないので」は忘れ難いです。私は医者になりたいでした。でも、苦手です。今、歴史学も好きです。科学の歴史がおもしろいです。

奥山さん→蔵さん

2022年 2月 13日

アジ風交流会への参加、お疲れさまでした。蔵龍凱さんのピアノ演奏をじっくりと聴きました。一生懸命にピアノを弾く姿、弾き語りも良かったですよ。勉学に励みながらも、趣味も楽しむ蔵龍凱さんに感心しています。

蔵さん→奥山さん

3月 6日

横浜で天気は良いですか。北京の天気はあまり寒くないです。春が来たと思います。

すみません、最近の学期の前2週間、忙しいから、奥山さんにメールを書いていない。



浅山久美子さんと馬思宇 (マ・スユイ) さんの交流 浅山さん→馬さん 2021年 10月



こんにちは、浅山です。アジ風に加わって1年半、清華大学の女子学生の方と交流しています。これからの馬さんとのメール交換のテーマや頻度はお任せします。

馬さん→浅山さん

10月 26日

苗字は馬、24歳です。故郷は中国中部です。両親は先生です。来年日本へ行き、一年滞在の予定です。現在は清華大学の修士一年生、専門は心理学です。絵を描くことと読書は大好きです。テーマや頻度はなんでもいいです。

馬さん→浅山さん

2022年 1月 11日



しめ飾りと門松の写真を拝見しました、本当に面白かった。日本人は伝統文化を重視しているが、中国の伝統文化は流失して、本当に残念でした。元旦は外来の祝日。中国では陰暦の初日は最も特別の日です。家族が集まり、ご飯を食べます。ギョーザは食べています。目上の人は目下の人に年玉をあげます。日本のお正月と中国のお正月は似ていますね。

中国人は伝統的な服を着なくなった。私の

伝統的な服の写真です。

馬さん→浅山さん

2月 25日

冬季オリンピックは終わったばかり。みんな大満足。私と友人は羽生結弦が大好きです。オリンピック期間中、多くの大学生がボランティア活動に参加しました。たくさんの言語を話せる人たちに感心しました。

浅山さん→馬さん

3月 5日

今は梅が満開です。3月3日は桃の節句、女の子の成長を祝う「ひな祭り」で、おひな様を飾ります。写真は十二単(じゅうにひとえ)という平安時代の皇族(天皇家を中心とした親戚)や貴族の衣装です。

馬さん→浅山さん

4月 22日

私は日本の国語の教育に好奇心があります。中国では中国語を勉強するとき、古詩と古文を暗誦し、いろいろな成語と典故を勉強しなければならない。日本が西洋文化の影響を受けるのは中国より深いだろう。日本の子供はまだ古文を学びますか。では、古詩の一つで終わらしましょう。朱熹(朱子)《春日》より

等閑識得東風面万紫千紅總是春(春を楽しんでほしい)

今後の行事予定

*詳細はHPを参照

7月 17日(日) 午後3時~4時半
パジャジャラン大学おしゃべりの場

7月 23日(土) 午後3時~4時半
貿易大学おしゃべりの場

7月 24日(日) 午後1時半~4時
Iメイト交流研修会

9月 18日(日) 午後1時
第20回総会

講演 赤坂清隆氏(元国連広報担当事務次長)

・・・編集後記・・・

「父母が頭(かしら)かき撫で幸(さ)くあれて言ひし言葉ぞ忘れかねつる」と1300年前の『万葉集』にも、戦に駆り出された防人兵士が「頭を撫でて達者でいろやと言ってくれた言葉が忘れられない」と父母を偲ぶ歌があり、送り出した父親が「おまえの腰に下げた太刀になって守ってやりたい」と詠む歌もある。

地球上には数限りない戦争や内紛が勃発しその度に沢山の怒りと涙が溢れた。そして今この現代にも理不尽なむごい戦争が進行していることを、嘆き悲しむ家族のいることを忘れてはならず、決して、TVや新聞やのマスメディアの向こう側のこととはならない。

折も折「1週間の軍事訓練に参加し銃や爆弾を使う新しい体験をした(もちろん偽物ですよ、笑)」と貿易大学のIメイトから屈託のないメールと女子学生達の笑顔の訓練制服写真が届き、この経験が笑い話だけで済むことを強く願っている。(原谷 洋美)